

中心市街の再生はゼロから計画するのではなく、既存の価値を高める手法が必要である。都市には、これまでに整備されてきた生活の基盤となるたくさんのものがすでに存在している。それらは活用可能なストックであり、その現代的な意味を見出していくことが重要である。建築と環境の持続を目指した「サステナブル」の志向の中で、青葉通りと呉服町における再生提案を行う。



呉服町通りにおける再生提案

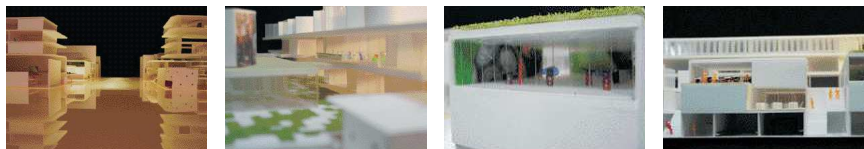


今の呉服町のままがいい このままで…
他都市の中心市街地がシャッター街になっていく中
駿府城下のこの街は、いまだ多くの人に愛されています
今の呉服町のままがいい このままで…
そうわず、あなたの一言を聞かせて下さい
「呉服町が変わる」

それは静岡が変わるということです
その時が来たら、何を想い、どんな気持ちになりますか
残していきたいもの…
変えていきたいところ…
今後に望む呉服町の姿は…
私達からの提案は、あなたにどう映るでしょうか

呉服町商店街

映像と透明感のあるファサードが通りを挟んでもつながりを感じる街区をつくり出す。



互いにある大小様々なスクリーンを、通り、階段、デッキなどいろいろな場所から見る
中庭のあるオフィスは快適な執務空間。クリアなオフィス空間は働く姿が看板(宣伝)になる
スタンディングスタイルのカフェ
上層階の店舗は、通りに面した階段からアクセス

交流の再編

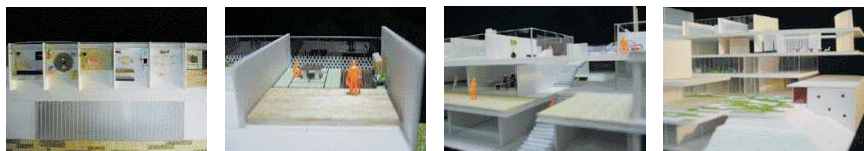
自然に人が集まり交流が生まれる場、生み出される場、人と人が集う場を提案する。



青葉通りに面するパブリック空間は休憩、待ち合わせ、ステージ、客席と様々な用途をもつ
白くフラットなファサード面には、色々なイメージが映し出される
視点を变えて静岡の街並みを楽しむことのできるオープンカフェ
季節を彩るオブジェは新しい街のスポット

しずおか life style

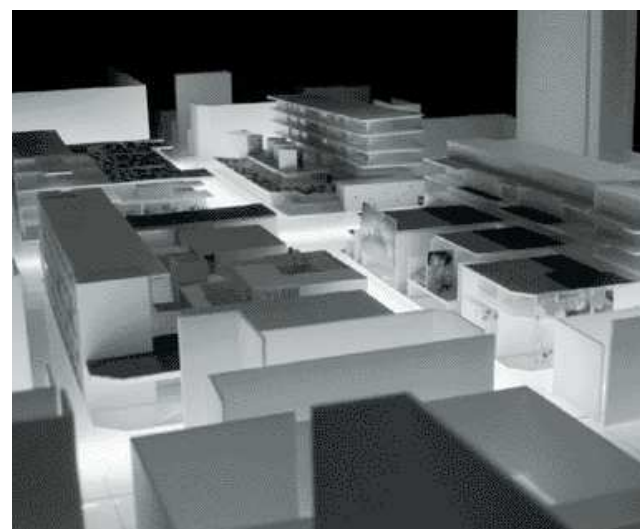
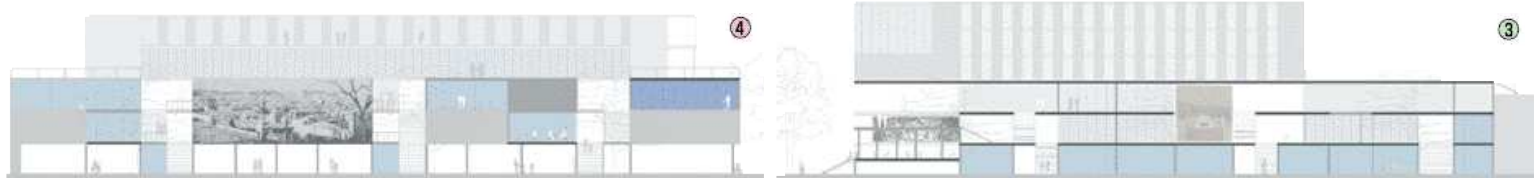
徒歩圏内で何でも済ませることができる。静岡は便利なコンパクトシティである。



Residence
・4階から6階は、居住スペースとして利用する
・店舗やオフィスとは動線を分け、居住者専用の空間とする
・街の中に住む利便性
・趣味の部屋を街の中に持つことも可能

Shop
現在のように1階レベルは商店街になる。中庭や階段をつくることでファサードがふえ、今までと違った動線が生まれる

Office
・職場が看板(広告)となる
・情報交換しやすく、また、官庁などが近く、情報が集まる



地域性
文化継承
今の呉服町の居心地の良さは、壁や道路の幅が静岡の人に合っているからだと云えます。その呉服町スケールを残すことで、いまの雰囲気伝えます。

社会・拠点性
街歩きの動線の変更
1階メインの商店街(2次元)を3次元化することで新たな発見と広がりのある商店街になります。
多世代・多文化交流
3Dの動線にすることで生まれた通りスペースは新たな交流の場となります。

居住性
スモールシティ静岡の活性化
役所、病院、駅などが徒歩圏内にある静岡は、スモールシティとして暮らしやすいと言われています。